

私の父は家族を養うために必死で働いてきましたが、5年前に突然脳梗塞で倒れ、必死にリハビリを続けましたが半身麻痺が残り、車椅子生活を余儀なくされました。

身近な身内がそのような状態になり、これまで考えることのなかった障がいを持っている人たちの生き方について考えているときに、私の知人から B 型作業所の話を聞き、施設の見学に行ってみました。そこでは障がいを持っている人たちが一所懸命に働いており、作業しているときは黙々と行い、休憩になればみんな楽しく談笑する姿がありました。障がいを持って、障がいに応じて働き、生きがいを見い出していけるのだと目の当たりにし、私は感動しました。その時、私も障がいを持っている人の働ける場所をつくりたい、更には社会で生きていく力を身に付けるための支援をしたいと思うようになりました。

長年病院などで障がい者の方々のお世話をしていた母に相談したところ、母がサービス管理責任者として応援するから一緒に頑張ろうと言ってくれました。

利用者が作業を通し、コミュニケーションを図りながら、就労への意欲を高め、いきいきと自分にあった働き方を見つけられるような就労継続支援 B 型作業所を作っていきたいと考えています。